

### 3 地域経済の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正 )

#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 11 月)	今回 (平成 16 年 2 月)	
鉱工業生産	緩やかに減少	緩やかに増加	
観光	おおむね横ばい	減少	
住宅	おおむね横ばい	増加	

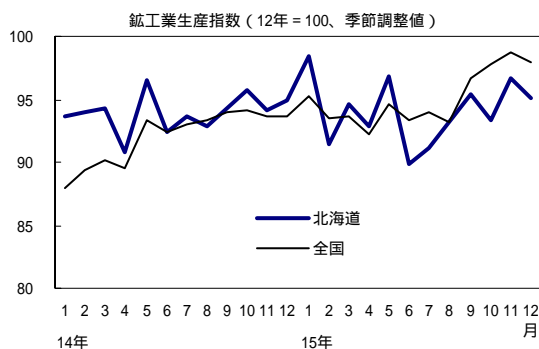
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業ともに前年を上回っている。

生乳生産は、飲用牛乳等向けが減少したものの乳製品向けは増加し、10 - 12 月期の生産量は 951,739t で前年を 1.7% 上回っている。水産業(主要9港主要品目)は、カレイ類が増加、タラ・スケトウダラ・スルメイカが減少し、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

食料品・たばこは、砂糖や塩蔵品などが上昇し、増加している。パルプ・紙は、新聞巻取紙や雑種紙などが上昇し、増加している。電気機械は、発電機部品やチップコンデンサなどが上昇し、好調に推移している。窯業・土石は、公共工事や民間投資の縮小による生コンクリートの低下などから、減少している。金属製品は、橋りょうやスチール建具などが上昇し、増加している。



(備考) 平成 15 年 12 月の北海道は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

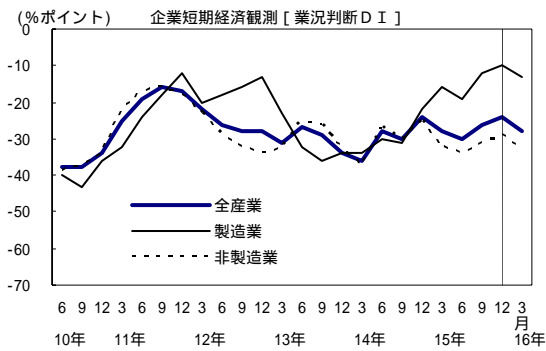
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品・たばこ	26.5	0.8	7.1	13.1	4.7
パルプ・紙	12.1	2.5	1.7	2.2	10.2
電気機械	9.5	4.6	7.5	8.4	19.3
窯業・土石	9.0	1.2	0.9	2.4	6.5
金属製品	9.0	2.5	2.0	2.8	5.5
鉱工業	100.0	0.0	1.9	3.5	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

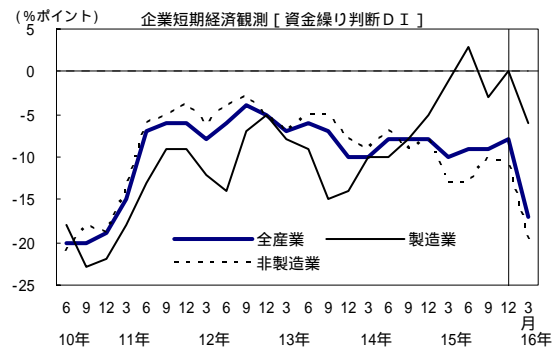
2. 10~12月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

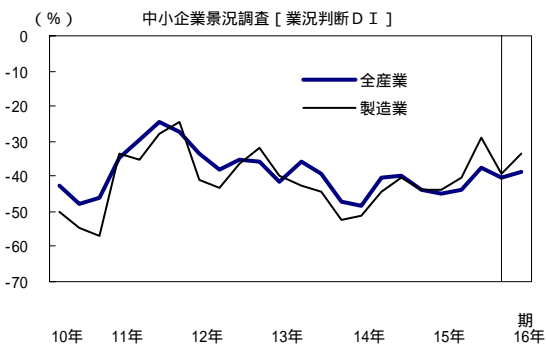
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「年始も操業した工場が多かったものの、大雪や台風並みの低気圧の影響で輸送に混乱が生じ、結果的には期待はずれとなった(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

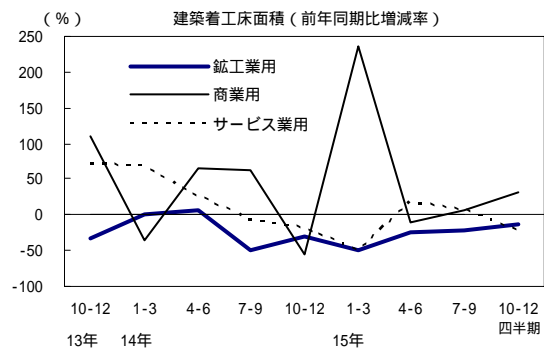
(4) 15年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位: %)

	14年度実績	15年度計画
全産業	9.5	17.8 ( 0.4 )
製造業	5.1	25.3 ( 2.7 )
非製造業	11.7	13.8 ( 1.7 )

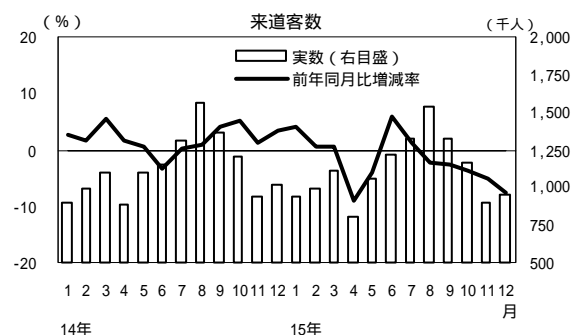
(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は減少している。

海外からの客は堅調なもの、降雪量の少なからスキー場の開業が遅れ、国内のスキーツアー客の取り消しが相次いだこと等により、5か月連続で前年を下回っている。

なお、2月に開催された雪まつりの来場者数は、前年比2.4%減少の2,179千人となっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

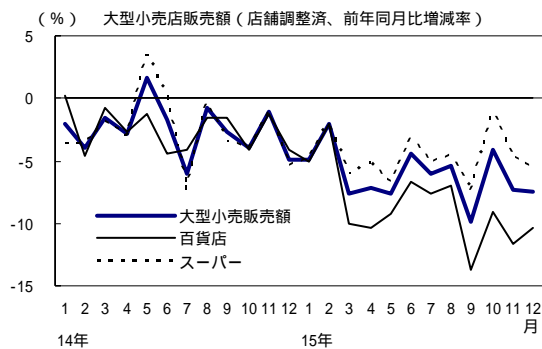
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月に気温が低下して衣料品などに動きが出たが、11月は暖冬となり重衣料や靴などが不振に終わった。12月は歳暮やクリスマスなどの一部を除き売上が伸びず、年明けのバーゲンセールに備えた買い控えも重なり、前年を下回っている。

スーパーは、暖冬による衣料品の不調、新規出店が続いているための競合などにより、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（1月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「依然として客単価が前年比98%前後で推移している。一人当たりの買上点数が前年比102%前後と増加しており、売上高の減少は収まってきている（住関連専門店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

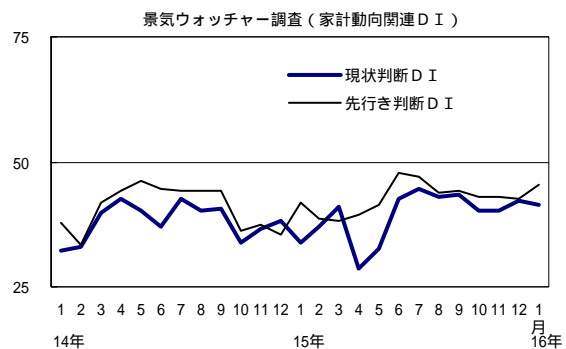
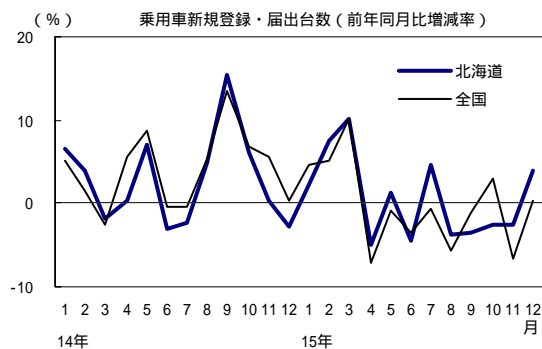


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.1	6.4	7.1	6.4
百貨店	6.1	8.7	9.5	10.3
スーパー	4.5	5.0	5.7	4.1
乗用車	7.8	2.8	0.6	0.7
景気ウォッチャー	37.4	34.6	43.7	40.9

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

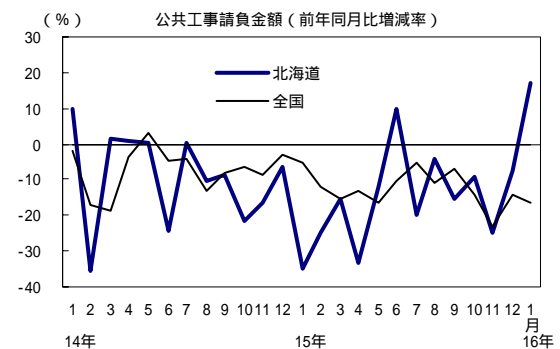
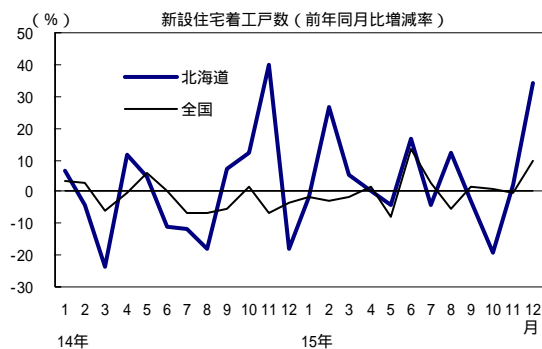
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家と分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

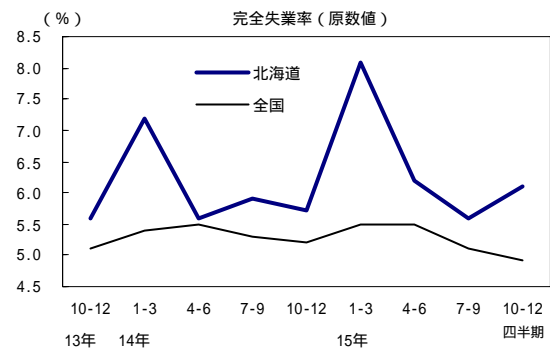
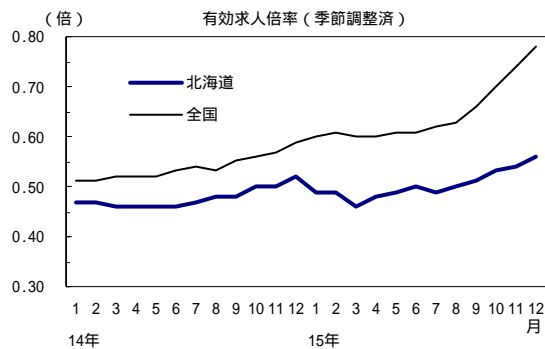


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

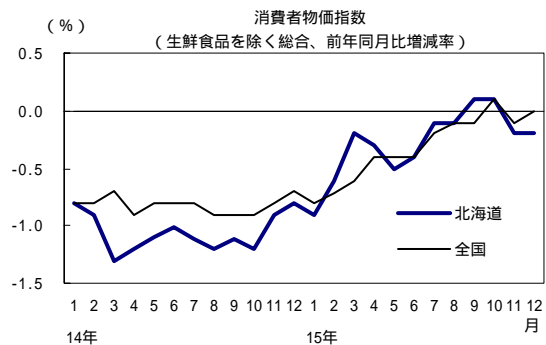
「求人広告の約7割が飲食・サービス業に占められ、業種・職種に偏りがみられる。求職者の希望職種と企業の求める能力の間でミスマッチが顕著になっている(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	214	191	145	137	49
(前年比)	6.5	2.7	20.3	9.3	26.9
負債総額	1,105	2,610	448	334	160
(前年比)	24.6	337.8	0.0	67.5	76.2



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・業界では、個人客へのシフトが指摘されているが、個人客の動きも鈍い。景気とは無縁と思われるような色々な風評が飛び交い、旅行気分には水を差している(観光型ホテル)

<先行き>

・米国におけるBSE(牛海綿状脳症)の発生が、今後、水産物に対してはやや追風となる(食料品製造業)

